

日々 往来



田口 哲也

今年、世間をにぎわせたキーワードのひとつに「キャッシュレス」が挙げられる。鳥取県内でさまざまな立場の人々と話してみると、「地方や高齢者には、キャッシュレス化は向かないのではなにか」という答えを返されることが多い。果たしてそうだろうか。

お店のレジや交通機関などで、代金やお釣りの受け渡しがいままでのように見かけられることは少なくない。スマートフォンのような操作に面倒がなく、安心して使える方法があれば、現金をやりとりする煩わしさを少し

前提を疑ってみる

でも減らしたいと感じている高齢者は多いのではないかと。鳥取県には、インベションに不可欠な知の拠点が医・工・農などに加

え、地域デザインや環境といった時代を先取りした領域にも存在する。人材をひきつけるための魅力的な自然や文化、落ち

着いた生活環境に事欠かないのも大きな強みだ。地理的ハンデを交通インフラの整備やICTによる補完などで緩和でき

れば、他地域との経済力のギャップを一気に乗り越える。越える将来像を描くことも可能ではないか。これまで

の先入観や思考回路の前提をリセットして考えてみる価値ある課題の例ではないだろうか。

製造業中心の高度経済成長期はともかく、最近では「地域の労働生産性格差の要因として、もはや工業集積の高低はそれほど大事ではなく、インベションの地域間格差が重要となっている」とい

うのが、経済産業研究所・徳井チームなど、わが国の第一線研究者の見解

だ。(日本銀行鳥取事務所長)